図書館だより

大分県立芸術文化短期大学附属図書館

No.7 (2006.10.1)

図 書 館 と 情 報 化

図書館長 凍 田 和 美

情報処理と図書館には、強い関係があります。コンピュータが情報を処理するには、人がどのように情報を処理するかの知識が必要です。その知識の多くに、図書館での情報管理の知識が詰まった「情報学」が含まれているからです。遅れ気味であった図書館も現在では情報化が進み、大学の図書館内の蔵書検索はもちろん、学外の複数の図書館をまたいで検索が出来るようになっています。情報化することで、すばやく、欲しい本が手にはいるのはありがたいことです。

本学の図書館システムは、来年４月が機種更新の時期に当たり、現在、新システムの導入準備が進んでいます。どこまで機能を入れるかの検討中ですが、先生方が欲しい本の購入依頼をご自分の研究室でパソコンからできるようになりそうです。今まで、４枚複写の図書注文票に手書きで記入していました。インターネットで欲しい本は簡単に検索できても、注文票記入が手書きなので締め切り間際に注文票がどっさり図書館に持ち込まれ、図書館職員もその対応に追われていました。（学生さんの要望を取り込みやすくする機能も是非つけたいものです。）その手間が少なくなれば、図書館職員は、利用者に対するサービスの向上に努めることができるようになります。

「21世紀の図書館」と言われているのが、電子図書館です。そこでは、いつでも、どこでも、だれでも、ネットワークを介して本などの中身が閲覧できます。さらに、①離れた場所の本などの共有、②欲しい情報の内容による検索、③希少性が高い資料の閲覧、④多様な情報資源（マルチメディア）へのアクセス、⑤場所をとらない保存などの多くの特長を持っています。しかし、実現には著作権保護や必要経費などの課題が残っています。また、本を寝転んで読むことや本のにおいがなくなるのはさみしいですね。

先日、久々に単行本を４冊持ち込み、出張の飛行機に乗り込みました。今の自分にはない世界を持ち込んでくれる本は音楽とはまた違う癒しを感じさせてくれます。秋本番、学生の皆さんも読書をしましょう。

（こおりだ　かずよし／情報処理論）

目　次

図書館長からのメッセージ …… 1
図書館からのお知らせ …… 2
図書館の耳より情報 …… 3
この本、読んでみて！ …… 4
図書館のアルバイトをして …… 4
おすすめの一冊 …… 5
試聴室へ行こう！　～試聴室おすすめのディスク～ …… 7
ツッチーコーナー …… 8
職員のつぶやき …… 9
本学教員執筆書籍等の紹介 …… 10

図書館からのお知らせ

本学の附属図書館は、約10万冊の蔵書があります。毎年、約５千冊が、新たに入ってきており、所蔵スペースの確保に苦心しているのが現状です。そこで、少しでも利用しやすいように、夏休み期間中に学生アルバイトの協力のもと、館内の整理を行いました。

今回の整理では、下記の場所を中心に配置を見直しました。

夏休み前と置き場所が違っていることがあります。不明な点があれば、遠慮なく職員にお尋ねください。

１Ｆ　第１閲覧室　美術書（大型本コーナー）

美術書は、他のジャンルに比べ、版型が様々です。小さな本が、大きな本に隠れてしまい、見つかりにくくなってしまいがちです。

そこで、本の高さが30㎝を超えるもの（Ａ４サイズより大きい）を大型本コーナーに別置しています。これまで、大型本の増加にあわせ大型本コーナーを増やしたため、分類番号の同じものが別々の場所にありました。今回の整理で分類番号順に並べなおし、次のように置くようにしました。

☆芸術・美術（700）、彫刻（710）、絵画（720）、版画（730）→第１閲覧室の南側及び窓際

☆写真（740）、工芸（750）→第１閲覧室の北側

一方、第１閲覧室の中央の書架には、30㎝以下の本を置くようにしました。

図書の大きさは、インターネットで蔵書検索をし、「書誌詳細画面」を開けば確認することができます。

２Ｆ　第３閲覧室　総記、参考図書（辞典・事典）

このたび、新しくドイツ語の百科辞典を購入したことにあわせ、分類番号順に並べなおし、コーナーを増やしました。ドイツ語の辞典、フランス語の辞典、文学の事典が、低書架から壁際の書架に移動しました。

また、情報処理（007）の図書で、内容が古くなり、利用があまりないと思われるものについては、第１書庫へ移動しました。

２Ｆの参考図書コーナーは、スペースの都合上、主に人文系の参考図書を置いています。社会科学、自然科学、技術、芸術の事典・辞典については、第１、第２閲覧室の各ジャンルの棚に置いています。

基本的に参考図書は禁帯出（貸出不可）のシールを貼っていますので、館内利用してください。やむを得ず、授業用に借りたい方は、カウンターで相談してください。

なお、年鑑・白書・統計書については、最新版以外は第１書庫に置いています。

図書館の耳より情報

図書・雑誌等を読んだり、借りたり、コピーをしたりすること以外に図書館には様々なサービスや情報を提供しています。耳より情報をヒントに図書館を有効活用してください。

◆図書館視覚室（芸術棟１Ｆ）

試聴室でＡＶ資料（ＣＤ・ＤＶＤ・ＶＨＳ等）を鑑賞できるのはご存じだと思いますが、個人鑑賞になっています。芸術棟１Ｆにある図書館視覚室では、団体でＡＶ資料を鑑賞することができます。作品を鑑賞しての感想など、語り合うことができます。利用する場合はカウンターに申し込んでください。

◆外国語の学習をされる方へ

語学教材のリンガフォンが図書館の試聴室で利用できます。外国語の習得を目指している方は、ぜひ、利用してください。現在はドイツ語、イタリア語コースを所蔵しています。今年度は韓国語を購入する予定です。

◆リクエストサービス

自分が探している図書等が図書館にない場合、あきらめてませんか？　そんな必要はありません。図書館にはリクエストサービスがあります。リクエスト（購入希望）すれば、予算面等で購入できない場合もありますが、できるだけ要望にお応えします。カウンターで所定の手続きをしてください。早ければ、１週間程度で貸出すことができます。

◆相互貸借サービス

購入が不可能な資料については、図書館間の相互貸借サービスを利用できます。相互貸借とは耳慣れない言葉ですが、図書館同士が所蔵している資料を貸し借りすることを言います。送料は利用者負担となりますが、探している図書等を全国の図書館から借りることができます。カウンターでお申し込みください。

◆文献複写サービス

卒業論文などの資料集めの際に、このサービスを利用してください。当図書館に所蔵していない論文や記事でも全国の図書館に依頼して、コピーを入手することができます。カウンターでお申し込みください。

◆日経写真ニュース

８月24日発行の第2601号から日本経済新聞社の写真ニュースを１Ｆ掲示板コーナーに掲示しています。前週の話題性の高い出来事が４枚の写真ニュースで見ることができます。図書館に来た時には見てください。

この本、読んでみて！

伊坂幸太郎　『死神の精度』

美術科１年　**橋　本　千　里**

「俺が仕事をするといつも降るんだ」主人公、死神は１週間後に死ぬ「可か否」の調査をするのが仕事。人間に興味はない。仕事をするときにはいつも雨が降る…。

本自体は「死神の精度」、「死神と藤田」、「吹雪に死神」、「恋愛で死神」、「旅路を死神」、「死神対老女」の６編で構成されている連作短編集。ちょっとズレていて不死身の体をもち、ミュージックをこよなく愛する、こんな死神と人間の出会いが織り成す感動のストーリーになっています。

与えられた人生を必死に生きる人間、諦めた人生を生きる人間など６つのストーリーには様々な人間が登場します。それぞれの人間には不器用さや格好悪さなんかがあるのですが、それが逆にとても人間らしいと感じます。そして人間ではないがゆえの素直さや、あくまで淡々とシュールに仕事をこなす死神。これらが、この作品のユーモアにつながっていると思いました。

そして私がもっとも惹かれたのは、一話一話の短編が恋愛小説風であったり、ロードノヴェル、ハードボイルド風などのスタイルで読んでいて飽きないところです。ひとつひとつが新鮮、さらにユーモアあり、と楽しんで読むことができます。

明日がわかっているのは死神だけ。そんな中、人間が滑稽に切なく、しかしどこか「生きているっていいなあ」と実感できる小説です。

様々な小説の形が堪能できる一冊。最後まで読んでください。死神はすべてわかっている、お見通し。だからこそ、切ないと感じる。そんな短編集をぜひ。

伊坂幸太郎（いさか　こうたろう）

小説家、1971年千葉県松戸市生まれ。2000年『オーデュボンの祈り』で第５回新潮ミステリー倶楽部賞を受賞しデビューする。独創的な構成と爽快感を感じさせる筆致で独自の作風を確立している。本学には日本推理作家協会賞を受賞した『死神の精度』をはじめ、８作品所蔵している。

図書館のアルバイトをして

国際文化学科１年　**南　　暁　子**

前期の間、私は図書館を一回も利用していませんでした。それで今回アルバイトをさせていただき、私の図書館へのイメージも変わり、後期はたくさんの本を読みたい!!　というか、読まなきゃもったいない!!!と思いました。

アルバイトの期間は４日間で本当に短い間でしたが、スケジュールがびっしりで、少し大変なこともあったけど大変良い経験になりました。午前と午後で仕事内容は基本的に二つ。一つの作業をするだけの単純なことなのに半日では終わらない。このような仕事を利用者のために毎日されている図書館の皆さんには、本当に感謝しなければいけないと思いました。

本の情報入力や書架整理をして、さまざまなジャンルの本があることを知り、これは読まなければ損！と思って思わずメモをとってしまいました。私のようにあまり図書館を利用していなかった方、まずは一度行ってみてください。あれだけの本を一冊一冊丁寧に管理しているんだと驚くと思います。そう思って周りを見まわせばきっと皆さんの興味をひく一冊が見つかると思います。

おすすめの一冊

※取り上げられた本は、附属図書館に所蔵もしくは所蔵予定です。

吉田憲司『文化の「発見」――驚異の部屋からヴァーチャル・ミュージアムまで』（岩波書店）

美術科　**荻野　哉**

近年、「～ミュージアム」という呼び名の施設――「博物館」でも「美術館」でもなく、「ミュージアム」と名乗る施設――が目立ち始めている。私は、前期の講義でその例を挙げつつ、なぜ今museumなのかという問いに対する考えを語った。受講者がどの程度関心を持ってくれたかは分からないが、この問題をより掘り下げて考えてみたいという場合におすすめなのが、本書である。

本書では、明治以降に日本に輸入された「博物館」および「美術館」という西洋の概念と制度が、さまざまな角度から考察される。そして、一見客観的な文化の展示のように見えるこれらの制度の中で、異文化に対する西洋中心主義的なまなざしがいかにして形作られ、刷り込まれてきたかが説得力豊かに語られている。とくに、1984年にニューヨーク近代美術館で開かれた「20世紀美術におけるプリミティヴィズム」展を論じた章では、「芸術」や「文化」といった概念に潜む根源的な偏見や差別の構造が見事に浮き彫りにされている。また、東京国立博物館、さらには著者自身の勤務する国立民族学博物館を俎上に上げることによって、その議論が日本における異文化理解の問題にまで広がりを見せている点にも大いに注目すべきであろう。

出版後数年が経ち、本書で提起された問いにもいろいろな解答が示されつつある。しかし、「芸術」とは、「文化」とは、そして「民族」とは何なのかという問題を考えるべき立場の者にとって、本書がやはり必読文献であることは疑いない。最後に、著者の議論を厚みあるものとしている要因の一つに、明晰かつ誠実な文章の「力」があることを付け加えておきたい。答案やレポートの書き方に悩んでいる学生諸君にとっては、別の意味での「文化の発見」にもつながるはずである。

（おぎの　はじめ／美学）

レンツォ・アッレーグリ著　小瀬村幸子訳『スカラ座の名歌手たち～30人の語る成功への道～』（音楽之友社）

音楽科　**愛甲久美**

この本は、イタリアのジャーナリスト、レンツォ・アッレーグリがオペラ界の大スターであるパヴァロッティやドミンゴ（３大テノールのうち２人ですね）や、かつての大歌手デル・モナコ、テバルディらにインタビューした内容をまとめたもので、30人の歌手の生いたちから、歌手になるまでのいきさつ、そしてその後等が、本人の言葉そのままに語られています。

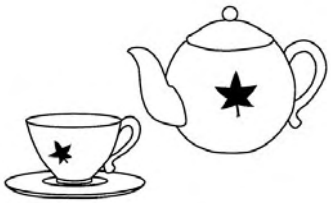
華やかなスターたちの実は苦渋に満ちた、あるいは幸運に恵まれた半生が、それぞれの人となりを感じさせる言葉で語られていきますが、そこには、人がチャンスや挫折に直面したときの現実のとらえ方、決断のし方等のたくさんのヒントがあるように思えます。

少なくとも私自身はこの本を読んで、これほどの才能を持った人々がこれだけの思いをしているのだから、私の挫折なんてかわいいもんだなぁ、と妙に元気になった覚えがあります。

今、目標に向かって突き進んでいる人、反対にちょっと壁につきあたってヘコみぎみの人、両方にお勧めです。その両方どちらでもなくても、読みものとしても、結構面白い（へぇ～こんな人生ってあるんだぁ～って感じです）ので、興味のある人は読んでみて下さい。

愛甲研究室にあるので、読みたい方、声をかけてみて下さいネ。

（あいこう　くみ／声楽）



『The Eye-opening Eyewitness Books』

国際文化学科　**グレゴリー・A・グッドマーカー**

The Eyewitness Books series is composed of eye-opening and thought-provoking books that teachers can use to motivate their classes. Students will also enjoy reading these books. Why are these books so good? The images are fantastic, the facts and details in the texts are stimulating, the books are pedagogically useful, and the topics match the needs of our four departments.

Powerful images are eye-catching teaching tools. Each page has unique photographs or amusing paintings or informative diagrams. Professors can utilize these images to augment their lectures. Teachers can scan the images and display them with a projector, or teachers can simply use an OHP.

Teachers need to find ways to make lessons more intriguing and comprehensible. For my American History course, I recently used Wild West and Civil War, two of the books in the series, to make the lessons more interesting. Images in these books helped students to better understand American Indians, Europeans settlers, the Civil War, and many other important aspects of American history. Moreover, the images and stories in these books moved my students.

The books also helped me to increase my own background knowledge of classroom topics. As a result, I could create better lectures and more appealing teaching materials. Each book is similar to a comperhensive encyclopedia on one topic. The written texts are succinct, so interesting information is easy to discover. Each section of written text is connected to visual aids, so students with limited English reading skills will still be able to comprehend main points.

Books in this series cover hundreds of topics, many of them relevant to the needs of teachers and students in all of our departments. A small sample of the Eyewitness books that can assist teaching and learning in our college includes American Revolution, Film, Watercolor, Time and Space, Light, Media, World War 𝍷, and Shakespeare.

Our library has approximately ninety of the books in this series. They are located on the second floor of the library. I recommend that all teachers and students take a look at this unique and fascinating collection of eye-catching books

（Gregory A Goodmacher／英語）

下條信輔『サブリミナル・マインド～潜在的人間観のゆくえ』（中央公論社新書）

情報コミュニケーション学科　**吉 山 尚 裕**

この本は、カリフォルニア工科大学の先生が書いた心理学の入門書です。ふつう心理学の入門書は、「感覚と知覚」「学習と記憶」「動機づけ」といった具合に、分野ごとに研究を紹介していくのですが、この本は、まず大きな“メッセージ”を用意し、それを裏付ける研究（証拠）を紹介していくという、非常にユニークな構成になっています。

そのメッセージとは、「人は自分で思っているほど、自分の心の動きを分かっていない」というものです。皆さんは、このメッセージをどう思いますか？　“そんなことはない。私は、自分の考えや気持ちをよ～く分かっている”ですか？　もし、あなたが、そう信じているとしたら、この本で紹介されている様々な実験結果を読んでいくうちに、信念が揺らいでくることでしょう。そして、自分で自分の行動をどのくらいコントロールできているのか疑いの気持ちが芽生えてくるかもしれません。

そうした面白い心理学実験の数々は、読んでのお楽しみですが、重要なことは、この本が現代心理学の成果に基づいて、一つの“人間観”を提示している点です。それは、「自らの意思で主体的に行動しているつもりでも、実際は、状況や環境に支配されている人間」ということになるでしょう。個人の意志、自覚や責任が求められる現代社会ですが、果たして、人間の持つ力は、そうした負荷に耐えることができるのか？　そんなことも考えさせてくれます。

この本は入門書とはいえ、内容が専門的なので、“難しい”と感じるかもしれませんが、とても読み応えがあります。“心理学の授業がとても面白かったから、もっと深く学んでみたいという人”にも、“心理学の授業はつまらなかった。何か面白い本はないかしらという人”にも、おすすめできる一冊です。

（よしやま　なおひろ／社会心理学）

試聴室へ行こう！
～試聴室おすすめのディスク～

シークレット・モーツァルト～クラヴィコード作品集／クリストファー・ホグウッド（クラヴィコード）

BVCD-34037（CD）

音楽科　小　川　伊　作

■収録曲
1．アレグロ（ソナタ楽章）ト短調 K.312（590d）／2．4手のためのアンダンテ（主題）と5つの変奏曲ト長調 K.501／3．メヌエット ニ長調 K.355（576b）／4．小葬送行進曲ハ短調 K6.453a／5．アンダンティーノ 変ホ長調 K.236（588b）［グルックのオペラ『アルチェステ』のアリア「狼狽しないで」による］／6．クラヴィーア作品ヘ長調 K6.33Bb／7．グラス・ハーモニカのためのアダージョ ハ長調 K.356（617a）／8．フリーメイスン歌曲「われら手に手をとって」K6.623a／9．ロンド ヘ長調 K.494／10.主題と2つの変奏曲 イ長調 K.460／11.幻想曲 ニ短調 K.397／12．4手のためのソナタ ニ長調 K.381／13.幻想曲 ニ短調 K.397（コーダつき）

今年は再びモーツアルト・イヤー。とは言っても前回（1991年）が没後200年であったのに対し、今年は生誕250年祭というわけで、ＣＤショップにいっても、どこかうきうきした感じでモーツアルトのディスプレイが組まれています。91年の国際的な記念行事が彼の晩年の傑作（にして未完の大作）「レクイエム」の国際衛星生中継であったことを思い返せば、その違いがわかろうというもの。といいながら今回ご紹介するディスクはかなり地味なものです。「クラヴィコード」…なんだろうとおもわれるでしょう。「クラヴィ」のところはバッハの「平均律クラヴィア曲集」の文字と一致しますが、語尾が「コード」です。実はこの楽器、18世紀以降音楽史の表舞台からはほとんど姿を消した楽器です。バッハの息子のカール・フィリップ・エマヌエルがその著書で「音楽の修得に最適である」と言及していることで、音楽史の本などでその名前、運が良ければ写真などを目にする機会がある程度です。先の名称の話に戻りますが「クラヴィア」は鍵盤を意味する語で、クラヴィコードとなると「弦付鍵盤」位の意味になります。実際楽器の構造はとても単純で、外見は今のピアノなどと同じように全音と半音の鍵盤が並んでいますが、その奥は鍵盤がそのまま伸びて、シーソーのようになっています。打鍵に応じ、支点を介して反対側の端に埋め込まれた金属の棒（タンジェント）が、下から弦を突き上げ、発音するようになっています。ピアノはぴんと張った弦に、ハンマーが瞬時に打弦するため、大きな音量と長い余韻が得られます。けれどもクラヴィコードでは、タンジェントが弦を突き上げたままになるので、音量は限られ、指を離せば音は途切れます。けれど構造が単純なだけに、タッチの微妙な違いが音に如実に現れます。このクラヴィコードの特徴が、先のカール・フィリップなどによって「よい鍵盤楽器奏者になるためには必須の楽器」といわれるゆえんであったのです。

このディスクで使用されているクラヴィコードは全部で3種類用いられていますが、いずれも18世紀に製作されたオリジナル楽器が用いられている点も注目度大です。そのうちの1台はモーツアルト自身が所有し、使用していたものだというのですから。

解説書の第1ページには再生に際し低めの音量で聴くように、と注意書きがありますが、これは音量を下げて聴きなさいという意味ではなく、再生音が小さいからと言って音量を上げないようにという意味です。普通のピアノ並の音量にしてしまうと、巨人の国のクラヴィコードになってしまいます。

演奏者のホグウッドは、我が国では指揮者としての知名度が高く、70年代には古楽器による斬新なモーツアルトの交響曲の演奏で世界の注目をひきました。その後もベートーヴェン、ハイドンと古典派の交響曲を録音しつづけますが、彼のもう一つの顔が歴史的鍵盤楽器奏者なのです。指揮の活動と平行してイタリアのフレスコバルディやフランスのルイ・クープラン、またイギリスのヴァージナル音楽の優れた録音を残してきました。また近年はイタリアのマニャーノという小さな町で、隔年に開かれる国際クラヴィコード・シンポジウムに、毎回熱心に参加しています。つまり今回のホグウッドによるディスクは、彼の長い指揮者としての経歴と平行して、積み上げられてきた鍵盤楽器への深い探求の成果であるといえるわけです。このディスクでは連弾も収録されていますが、第二奏者を担当しているデレク・アドラムも鍵盤奏者・製作家にしてイギリス・クラヴィコード協会の会長という念の入った人選です。ここまで書いたところでページも尽きてしまいました。演奏されている曲については、ディスク付属のブックレットに、ホグウッド自身が詳細な解説を記している（もちろん翻訳されています）ので、そちらをお読みください。

クラヴィコード＝古楽器というと何百年も前に廃れた楽器の用に思いがちですが、このディスクのようにモーツアルト時代はもちろん、19世紀まで音楽家の一番身近な楽器として存在したのがクラヴィコードです。これからの秋の夜長、電気がない時代に工夫された精妙きわまりない楽器の音色に耳を傾けてみませんか。

（おがわ　いさく／音楽学）

ツッチーコーナー

泣きなさい　笑いなさい　～最近読んだ本の中から～

教務学生グループリーダー　土　田　一　彦

①こうの史代『夕凪の街　桜の国』◎は、後書きまで入れても100頁余りの薄い本で、図書館の美術書コーナーに埋もれてしまっているが、まぎれもなく漫画史に残る傑作。最近の劇画の、脚がスラッと長く小顔の人物に慣れた目には、頭でっかちで短足な登場人物たちは不格好に見えるし、意識的にスクリーントーンを使わず、フリーハンドで描かれた背景の建物や影の斜線のひとつひとつの線のぶれや歪みも一見ヘタな絵に思えるが、読み進むうちに、それら全てが温かく愛おしく感じられるようになる。ぜひ読んでほしいし、最後まで読んだら、最初の頁に戻ってもう一度読み返してほしい。読み返すことによって、全体の物語や画面構成の緊密さが見え、静かな哀しみと怒りが伝わってくるはずだ。戦後60年を経て、戦争を知らない世代からの発言が小林某の『戦争論』では、あまりに虚しいじゃないか。

②小林信彦『うらなり』○。ここ30年間を通じて、個人的に日本で一番好きな作家の一人。『日本の喜劇人』『世界の喜劇人』に始まり、「オヨヨ大統領」シリーズ、「唐獅子」シリーズと全著作を再読、三読してきた。今回はお馴染み漱石の『坊っちゃん』の物語を脇役「うらなり君」から見直すとどうなるかという、パロディ或いはパスティーシュ。あのマドンナが中年太りの有閑マダムになって、うらなり君を誘惑するシーンには爆笑した。かつての某アイドル歌手を連想してしまったのだ。

③林真寿美『死刑判決は「シルエット・ロマンス」を聴きながら』○。獄中にある和歌山毒物カレー事件の被告とその夫・４人の子供たちとの書簡集。てっきりキワモノと思ったが、意外にも拾い物だった。獄中から子供たちを思いやり、あくまで普通に振る舞おうとする母親。福祉施設に収容されながら、心配をかけまいと健気に明るく装う子供たち。が、時がたつうち綻びが見え、子供たちの本音が爆発する。本当はこんな施設大嫌いだ。母さんはいつだって自分勝手だった。一体誰のせいで私達がこんな目に遭ってると思ってるの。家族の崩壊、そして再生。ラストの、世界中が敵に回ったとしても私達だけはお母さんを信じていますという手紙の力強さ。もしかして、この人は無実なのかもと思ってしまった。

④東野圭吾『赤い指』△。途中でネタバレするぞ。前作『容疑者Ｘの献身』の方が作品的にずっと上。現時点の最高傑作は『白夜行』。ＴＶドラマは最悪。

⑤三浦しをん『まほろ駅前多田便利軒』△。直木賞受賞作らしいが、この人は今のところ小説よりもエッセイ（「しをんのしおり」シリーズ）の方が、10倍ぐらい面白いと思う。

⑥森絵都『風に舞い上がるビニールシート』○。直木賞同時受賞の短編集。悪くはないけど、過去に出版された児童文学の方が遙かにできが良いと思う。特に『つきのふね』は最高。何度読んでも泣けます。今度文庫になったので是非読みなさい。

⑦真保裕一『栄光なき凱旋（上・下）』△。あの血湧き肉踊る傑作『ホワイトアウト』の作者が書いた二世部隊版プライベート・ライアンとの触れ込みだったので、期待してリクエストしたんだけどね。長いなあ。焦点がぼやけてしまった感じ。

⑧宮部みゆき『名もなき毒』◎。『火車』、『模倣犯』（これも映画は最悪だったけど）と並び、宮部ワールドのベスト３。読みなさい。

職員のつぶやき

本を読むということは、人付き合いと似ていると思います。

私は本当にあまり本を読むほうではないのですが、今年より図書館で働くようになりいろんな本を見るようになりました。私は雑誌担当なのですが、仕事をしてみて、雑誌にもいろんな雑誌があるのだなあと驚きました。そのたくさんの雑誌を見ていて、ふとその雑誌を作った人達のことを考えます。たくさんの意思、意見、感動、行動や声によりここにこの雑誌があるのだなと。一個の特集にたくさんの人の声が入っていて、それをこの本を通して聞けるという事実にびっくりします。しかも、普段意見を聞けない人達からも本だと意見をきけてしまう。遠い国の人の絵や音楽や考えなどを感じることができるということはほんとうに素晴らしいことだと思います。しかも筆者から問題をしかけてきてくれることもあり、考えることができる。本当に本はスリリングな教科書、講義だと思います。

図書館の２階の第一書庫には雑誌のバックナンバーがおいてあるのですが、その雑誌からもたくさんの声を聞くことができます。雑誌はそのとき流行のものを色濃く取り扱うのでバックナンバーを見るとその時代の人の声が聞こえてきます。バックナンバーと最新号を見比べてみるのもおすすめです。昔やっていたおんなじ特集でも筆者の考えにより解釈が違っていたり、新しい発見があり今までこうだとなっていた意見が変わっていたり、また、昔の考えがとても新しいものに見えてきたり…。人が考え、意見を出し、生み出し、積み重ねていって、今手に持っている本という形になっている。銀河みたいだ！　宇宙もそうなんかな？と、お昼休みに学食が作ったおいしいお弁当とドーナッツを食べながらニュートン（雑誌）を見つつ、考えたりしながら毎日お仕事をしています。みなさんもたくさんの人に会いに図書館にきてください！

（附属図書館／加藤　千鶴）

４月から本学に勤務することになりましたが、前職場（県立図書館）には昭和63年から18年間勤務しました。その間、公共図書館は大きく変化しました。多くの市町村に図書館が建ち、身近な施設となりました。機能面でもコンピュータ化が進み、利用・貸出中心の時代となっていきました。県立図書館も平成７年に荷揚町の旧館（現アートプラザ）から駄原の新館（豊の国情報ライブラリー）に移転し、多くの県民の方に利用していただいています。

最近は、図書館を取り巻く環境も劇的に変化しています。インターネット全盛の時代となり、居ながらにして必要な情報を入手することが可能になりました。図書館も多くの情報を利用者に提供しなければ生き残れない時代になっています。

本学の図書館もホームページから蔵書検索ができるばかりでなく、県内の大学図書館・県立図書館のホームページが検索できます。図書館に必要な資料がないからといってあきらめる必要はありません。リクエストしてくれれば購入しますし、全国の図書館から取り寄せることもできます。また、何か調べごとをして分からないことがあれば遠慮せずに何でも図書館員に聞いてください。お役に立てると思います。ぜひ、図書館を利用してください。

大分市には、本学と同じ大学図書館や大分市民図書館、県立図書館があります。所蔵している資料も機能も違っています。本・雑誌を読む、映画を見る、読書会に参加する、企画展示を鑑賞するなど、いろいろな使い方ができると思います。

さあ、図書館に行ってみよう！

（附属図書館／後藤　秀一）

本学教員執筆書籍等の紹介

＊2006年４月以降

『La Reveuse　夢みる人』　N＆S　AVANCE
　水戸　茂雄　演奏　　小川　伊作　解説

『日本的王充《論衡》研究論著目録編年提要』　知書房
　鄧　紅　著

『ポスト開発期の東アジア』　花書院
　佐々木武夫　編著　　坂口　桂子　他　共著

『水球101の練習』　日本文化出版
　ピーター・クティノ著　　洲　雅明　他　共訳

大分県立芸術文化短期大学附属図書館
図書館だより　No. 7

発　行　日　2006年（平成18年）10月１日発行
編集・発行　図書委員会
大分県立芸術文化短期大学附属図書館
〒870-0833　大分市上野丘東１番11号
電話：(097) 545－4235
ウェブサイト：http://www.oita-pjc.ac.jp/library/　（図書館）
http://www.oita-pjc.ac.jp/~tsdayori/（図書館だより）
イラスト：美術科副手　尾前奈保子
印　　刷　㈲大分プリント社